



よ り そ っ て

『支えあう みんなでつくる 住みよい地域』

小諸市民生・児童委員協議会 広報部会

お互い様のつながりを作りましょう

会長 柏木 博美

民生・児童委員になって3期目ですが、色々なことがあり様々な人がいるということを感じています。また、私たちは一人で生活しているのではなく、家族、隣近所、様々な人に支えられているのだと実感しています。

民生・児童委員になったからと言って、地域の中で誰が困っているかはわかりません。見えません。地域の中には気付いている人がいます。そういう人と知り合いになることで見えてくることがあります。

私たちが地域で一番身近な相談相手になるには、人と人とを結ぶネットワークを築いていくことではないでしょうか。その中でお互い様の関係を作っていくといいと思います。

退任された前任の方たちの力も借りて「気づき、つなぎ、見守る」民生・児童委員として様々な問題を抱える人たちに寄り添っていただけるのではないかと思います。

支えあう住みよい地域は、お互い様のつながりを広げていくことから始めましょう。



民児協総会に参加して

乙女区民生・児童委員 小林 則子

4月28日ステラホールにて令和8年度 小諸市民生・児童(福祉)委員協議会総会が小諸市長他4名の来賓のご臨席をいただき、98名の委員が参加し開催されました。

総会では『支えあう みんなでつくる 住みよい地域』をスローガンとして本年度の事業計画、各部会の活動方針が承認されました。新米委員ですが、改めて行政や地域の皆様と共に支えあえる関係作りが出来るようになりたいと思いました。



小さな心遣い

宮沢区 民生・児童委員 清水 立夫

私が民生・児童委員を引き受けるにあたり、思い出したことがある。

もう50年も前、千曲小学校6年、秋の運動会のこと。

当時農作業で忙しい両親は運動会に来ることが出来ず、母は弁当を作って私に持たせてくれた。当時の運動会は1日ばかりで、お昼になり私は妹とふたりで弁当を広げようとしていた。

すると子供だけなのを心配してくれたのか、まわりの人達が

「一緒に食べよう」と声を掛けてくれ、その輪に加わることが出来た。

今ではその人達の顔も思い出せないが、心細い妹の表情と共に、あの日の自然で小さな心遣いが脳裏に浮かぶ。遠い記憶をたどりながら、2期目を迎えた私も、あの人達のようにありたいと願っている。



私たちに求められる姿勢とは

令和8年度の活動が始まっています。

以前の研修で、講師の方が私たち主任児童委員に求められる姿勢についてお話された言葉の一つが心に残っています。「お節介で行きましよう。目配り・気配り・心配りをもとに、こども、家庭の困りごとを放っておくのでなくかわりをもつて。いつもボランティア精神にあふれる活動を。」と熱意を込めて語られました。お節介の良しあしには疑問も。

まずは、地域の中で、こどもの健全な育ちを支えていくことが、主任児童委員としての主な職務になりますので、地域のこどもや家庭を「見守る」ことを心掛けていこうと思います。

こどもとの触れ合いは、登校下校、地区行事、学校行事などですが、互いに顔見知りになって、挨拶が交わされるようになり、表情まで観察できれば素晴らしいと思います。地区会でも話題にしたいです。

活動としては、学校ボランティア活動、社協主催の「サマーキッズフェスタ」で民生・児童委員、主任児童委員の協力協働があります。スタッフの皆さんと一緒に活動して、少しでもこどもたちの健全な育成の役にたっているという喜びも感じることも出来ます。

今年も民生・児童委員、主任児童委員の密な情報交換と活動での連携協力、関係機関と円滑な連絡調整を進めてまいります。

主任児童委員連絡会長 栗林 正直



東小学校 グリーンボランティアの様子

